

静岡新聞 2026年6月10日付

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

世界経済が「フラット化」すると言っている方を聞いたことがあるだろうか。米国のジャーナリストのトーマス・フリードマンがグローバル化が進展する経済の状況を説明するのに使った言葉だ。かつては国境を越えてモノや人を動かそうとしても、国境でのさまざまな障壁が邪魔をした。国境には山も谷もあったのだ。それがこの40年ほど、こうした国境の障壁が低くなり、国境を越えて、人、モノ、カネ、情報、企業などの動きが激しくなった。それをフリードマンはフラットな世界と表現したのだ。

フラットな世界とは、単に貿易が拡大するだけのものではない。企業が複雑なグローバル活動を行い、多くの国を巻き込んだ形の国際分業が開されるのだ。アップルのiPhone(アイフォン)

フラット化がもたらすリスク

が国際分業の例として使われることが多い。米国の企業であるアップル社が米国を中心に世界的なスケールで製品開発活動を行っている。最終製品の組み立ては中国やインドなどで行うが、その担い手は台湾の企業フォックスコンである。ただ、iPhoneの主要なデバイス(部品)の生産は日本・韓国・台湾などで行われる。こうした部品の国際分業も複雑だ。韓国のサムスンなどの半導体がiPhoneでも使われているが、その半導体の生産に必要な化学品の中には日本の企業の韓国子会社から供給を受けているものもある。

世界経済がフラット化していく大きなきっかけは1989年のベルリンの壁の崩壊だ。旧社会主義国がグローバル経済に組み込まれていった。95年に成立した世界貿易機関(WTO)の下で、中国やインドなどの新興国が世界経済の中に組み込まれていく。国境を越えた分業が広がる中で、世界規模での貿易や投資は複雑化していく。私たちが日常生活で利用している多くの商品は、多くの国を巻き込んだ複雑なサプライチェーン(供給網)に依存している。そうしたフラット化するグローバル経済を、私たちは普

段は意識することはない。ただ、イラン紛争などの混乱が起これば、フラット化する経済の脆さを思い知らされることになる。医療用の手袋、住宅機器で利用される接着剤、包装用の染料など、世界のどこかでサプライチェーンが目詰まりすると、私たちの手元に届かない。

フラット化する世界経済は私たちの生活に便宜を与えてくれるが、それが一度狂い出すと私たちの生活に大きな影響を及ぼしかねない。イラン紛争の中で私たちはフラット化する世界の脆弱性を実感している。イラン紛争だけではない。トランプ関税によって、貿易の縮小を通じて景気に大きな影響が及ぶ可能性がある。中国が進めたレアアース(希土類)の輸出制限は、フラット化する世界経済を利用した貿易政策の武器化である。こうした最近の動きを見ると、フラット化するグローバル経済に大きなゆがみが出てきていると感じざるをえない。フラット化する経済の脆弱性を避けるためにどのような対応が必要か真剣に考えることが必要だ。グローバル経済を活用することは重要だが、フラット化が持ち込むリスクへの対応が求められているのだ。